

人にも環境にもやさしい島に 再生可能エネルギーの島づくり



なぜ、再生可能エネルギー？

五島市は、再生可能エネルギーの島づくりに取り組んでいます。

再生可能エネルギーとは、風力、太陽光、地熱、潮流など自然からつくるエネルギーのこと。石油や石炭、原子力などの限りある資源とは違い、将来にわたって永続的に使うことができ、地球温暖化の原因となるCO₂（二酸化炭素）の排出量が少ない優れたエネルギーです。

2010年現在、日本のエネルギー自給率はたったの4%。残りの96%は、外国から石油や石炭・天然ガスなどの化石燃料を買って賄っています※1。また、化石燃料の利用によって発生するCO₂の削減も重要な課題です。

エネルギーの輸入量を下げつつも国内のエネルギーを確保し、同時にCO₂を削減するには、再生可能エネルギーで作られた電気を積極的に利用することと、再生可能エネルギーの導入をさらに進める必要があります。

このような中、いま、五島市が取り組んでいるのは、電気自動車の普及と再生可能エネルギーの活用です。

電気自動車推進の状況／五島市

【電気自動車導入台数】110台（H25.11.1現在）

①補助事業

レンタカー63台、タクシー7台、NPOなど12台
※利用実績は、レンタカーだけで延べ23,453台
（H22.3月電気自動車導入～H25.10月末）。

②補助事業外

事業者や個人など20台、五島市役所4台、
長崎県五島振興局4台

【充電器設置数】32基

急速充電器7ヶ所15基
普通充電器11ヶ所17基

【ITSスポット】10ヶ所

長崎みらいナビ搭載の電気自動車でITSスポットに行くと、市内イベント情報やおすすめ観光ルート、船・飛行機のダイヤ、緊急情報などがその場で取得できるように構築されています。



電気自動車推進の取組みが 国際的に評価されました

昨年、電気自動車・ハイブリッド車・燃料電池車など、電気車両関連分野における世界最大の国際シンポジウム（EVS）で、五島市・新上五島町が、電気自動車の推進に貢献した都市に贈られる「E-Visionary Award」を受賞しました。

この賞は、アジア太平洋・欧州アフリカ・アメリカの3地域からそれぞれ1つの都市が選ばれるもので、日本では、横浜市、大阪府に続いて3例目の受賞です。

電気自動車をより便利により快適に使えるように優れた情報ネットワークを構築し、すべての利用者に特別な対価を求めることなく、携帯電話やスマートフォンを利用して観光に活用できるようにしたことが優れた取組みとして評価されました。※今回構築した、電気自動車（EV）に高度道路情報システム（ITS）を融合させる仕組みは、世界初のシステムです。



↑授賞式は、スペインバルセロナで開催され、代表で中野副市長が出席。世界EV協会アジア代表からトロフィーを受取りました。

五島市・新上五島町での電気自動車の推進は、長崎県EV&ITSプロジェクト事業として進められています。国土交通省・経済産業省・大学・各メーカーの連携のもと、長崎県EV・PHVタウン構想に基づいて行われているもので、平成21年3月に全国で8つの都府県、九州では唯一、長崎県が国から選定された主要プロジェクトです。

その実証事業の場として五島地域（五島市・新上五島町）が選ばれました。

実証事業では、電気自動車（EV）等と高度道路情報システム（ITS）が連動した“未来型ドライブ”の構築など、他の地域に先駆けて電気自動車が普及した社会システムの創造に取り組んでいます。

今後は、さらなる電気自動車の普及、二次離島への小型電気自動車の導入などをしていきたいと考えています。

浮体式洋上風力発電実証事業が、 実用化・商用化に向けた 最終段階に入りました

昨年、平成24年度に設置した100KWの浮体式洋上風車（小規模試験機）に替えて、日本初の本格的な2000KW（2MW）の浮体式洋上風車（実証機）が設置されました。日本の技術力を結集した、台風にもびくともしない世界的にも先駆的な風車です。

実証機は、小規模試験機と比べて、規模が約2倍、発電能力は約20倍。年間予想発電量は、一般家庭約1800世帯分といわれています。

実証機で発電した電気は、椛島で使われます。椛島で使いきれない分は、奈留島に送られ利用されます。

10月28日⑨、椛島沖で実証機開所式が行われ、石原環境大臣をはじめ、今井戸田建設社長、石塚長崎県副知事、野口市長、荒尾五島市議会議長、川上伊福貴町郷長、榎田本窯町郷長、熊川五島ふくえ漁協組合長など、多くの関係者が出席。テープカットを行い、実証機発電施設の開所を祝いました。

式では、石原環境大臣が、「低炭素社会※2の創出に不可欠な再生可能エネルギーの普及に至っては、特に導入可能量が最も高いと言われている洋上風力がカギを握っていると考えています。」と述べられました。

環境省では、昨年1月に再生可能エネルギー導入加速化プログラムを策定し、洋上風力をはじめとする再生エネルギーの導入量を拡大するとともに、自立・分散型※3の低炭素エネルギー社会の実現を目指しています。

※1 原子力を除いた場合（出典：エネルギー白書2013）

※2 二酸化炭素の排出が少ない社会のこと。

※3 大規模発電所でつくられ送電線を使って供給される系統電力と、地域に必要な電力を賄うだけの小さな発電所（分散型電源）でつくられる電力を効率的に組み合わせる、エネルギー供給の仕組み。



↑式では、命名式も行われ、石原環境大臣、野口市長が「はえんかぜ」と命名。南東の風という意味で、幸せを運ぶという言い伝えがあるそう。

来年度には、実証機で発電した電力で水素を作り、蓄え、地域のエネルギーとして利用する「自立・分散型エネルギー社会構築に向けた実証プロジェクト五島モデル」を立ち上げる構想があるとのこと。

五島市は、この浮体式洋上風力発電の実証事業を契機・実績としながら、現在政府が進めている海洋エネルギー実証フィールド（日本版EMEC）の誘致を進めたいと考えています。

これからの時代を見据え、「再生可能エネルギーの島」の実現を目指して、五島市は着々と歩んでいます。

問 商工振興課再生可能エネルギー推進係

☎72-7862